

『灯』と『秤』のたとえ

2021年12月20日

「灯を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか。隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、明るみに出ないものはない。」(マルコ福音書4章21節b~22節)

「あなたがたは自分の量る秤で量られ、さらに加えて与えられる。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。」(マルコ福音書4章24節c~25節)

主イエスは、「灯を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか」と語られた。山上の説教では、この譬えの後、「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。人々があなたがたの立派な行いを見て、天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである(マタイ5:16)」と続けている。主イエスに祝福された者は「あなたがたは世の光である(マタイ5:14)」とされている。光は人々の前で輝くが、その輝きは天の父が崇められるようになるためである。月の光は、太陽の光を受けているからであるように、信仰者の善行は自分を誇るためではなく、神が褒め称えられるためにある。この視点は、他人の評価に思い悩むことから解放される。

マルコ福音書は、灯の譬えから「隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、明るみに出ないものはない」と、光によって、全てが露わになると繋げている。マタイ福音書では、「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものではなく、隠れているもので知られずに済むものはないからである(マタイ10:26)」と語られ、その文脈は、「体は殺しても、命は殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、命も体もゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい(マタイ10:28)」と、全てが明るみになるのだから、神のみを恐れなさいという言葉に繋がっている。人は皆、光を避け、隠し通したい過ちを犯しているが、神の前では明らかであることを恐れ、悔い改める砕かれた心を持ちたい。「聞く耳のある者は聞きなさい」という言葉が心に刺さる。

主イエスはまた、「あなたがたは自分の量る秤で量られ、さらに加えて与えられる」と言われる。山上の説教では、「あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量られる(マタイ7:2)」と言い、「偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、きょうだいの目からおが屑を取り除くことができる(マタイ7:5)」と、人を裁くなと語っておられる。マルコ福音書は、「自分の量る秤で量られ、さらに加えて与えられる」の後、「持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる」と繋げている。この言葉は、マタイ福音書25章の「タラントンのたとえ」の中で語られている。主人が旅に出る時、僕たちに各々5、2、1タラントンずつを預けた。5、2タラントンを預かった者は懸命に働き、それぞれ倍に増やし、主人からお褒めの言葉を受けた。1タラントンを預かった者は、無くなることを恐れ、地の中に隠し、それを、主人に差し出したところ、怠惰を厳しく叱責された。この譬えは、持つ者はますます持ち、持たない者はますます失う貧富の格差を生む「マタイ効果」と言われている。主イエスが金持ちになることを推奨したとは思えない。与えられた能力、タラントを生かして、精一杯励めという譬えであろう。与えられた秤で量られ、更に、豊かに加えられるように、能力を生かす生き方をしなさいということではないか。